

はウワバミソウ, ミズタビラコ, サワアジサイ, オクモミジハスマ, ヤマタツナミソウ, オオカニコウモリ, キヌシ, スミレサイシン, ヤワラシタ, オオモミジ, ハウチワカエテ, ムシカリ, コハウチワカエテ, コマユミ, エキツバキ, アキギリ, アキチヨウジ, リョウメンシタ, ハクウンボク, キヨタキシタ, ヤワラシタ, サカケイノテ, ジュウモンジシタ, エビネ, チマルメルソウ, ヤマトウバナ,

等が見られた。エキツバキについては南限が越前又は若狭の地にあるだろうとの北村教授の指示によりかねてから注意していたが、ここにもあることを確認した。

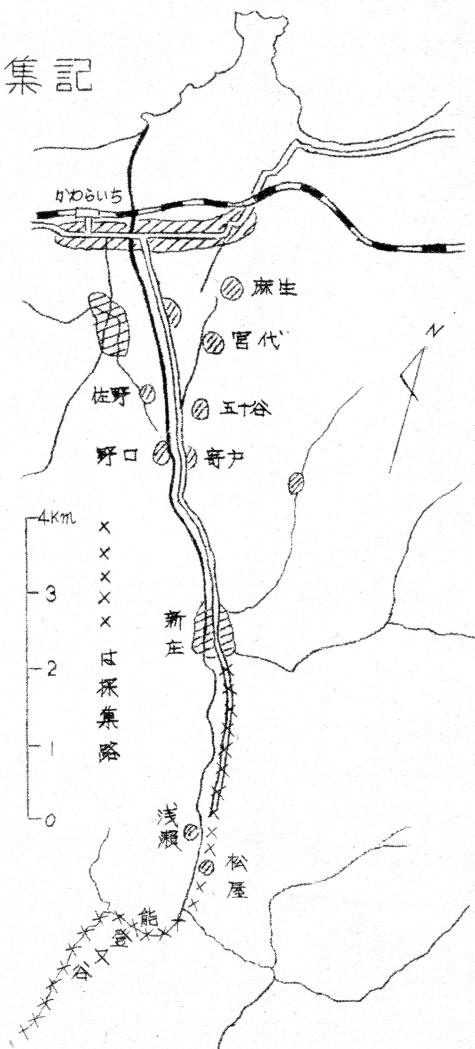
(寒蟬義一記)

耳川上流地方植物採集記

若狭の植物分布を調査するたために、堀芳寿先生と共に7月24日耳川上流地方へ採集行を試みたので、その概要を報告する。尚西村校長先生始め弥美小学校の諸先生方が参加され種々の御便宜を計つていただいたことを厚く感謝する。

なるべく上流地方を調査したいという我々の要望により、弥美小学校で手配していただいた小型貨物自動車で、この自動車が行き得るところまで運んでもらう。松屋の上流3kmの地点で下車し、之より更に能登又谷の上流地方を調査し、県境に近い辺から引返し新庄まで下る。しかしこの頃天候が悪化し、ついに降り出しだが、丁度通りあわせた某建設会社のトラックの好意で、之に便乗させていただき、比較的濡れずに帰ることが出来た。この時ほど人の好意をありがたく思つたことはない。

この調査で一応は新庄から上流地方の分布がわかつたので、採集順によらず下流から上流への分布状況を書く。



新庄 — 松屋

耳川下流地方に多い常緑樹林は上流に行くにしたがい次第に減少するが、タブノキ、シロダモ、ヤツツバキ、イタビカズラはこの辺にもかなり見られる。フユズタが枝葉を茂らし見してつると見えないのも暖地の姿である。主な採集品は次の如くである。

ゴンズイ、ティカカズラ、イタビカズラ、ホンドホタルアクロ、マタイオウ、ホシダ、オニグルミ、イヌコマ、エノキ、シロダモ、タブノキ、カワラマツバ、イスキシタ、チヨウジタテ、ヒメジソ、ヤノネタサ、コスナタサ、メヒシワ、コケオトギリ、カワラスカナ、キツネノボタン、イ、コウガイゼキショウ、タニウツギ、アストラギリ、フユズタ、オシャクジテンダ、シノス、

松屋より上流

常緑樹は少くなり越前の山地を歩くような錯覚におちいる。しかしカナクノキ、シロダモ、アカガシ等の侵入が見られ、この間にウリハタカエデ、ツノハシバミ、トチ、ダイミンカサ、オオカニコウモリ等の寒地性植物が同居しているのは面白い。下流地方に見られたヤツツバキに代つてエキツバキが現れるのは分布上興味がある。真越地方と同じようにカツラの見られることは太平洋側から国境山脈を越えて侵入したものではなかろうか。オニグルミは下流からずつとあるが、国境になるとサワグルミと入れ代っている。採集品は次の如くである。

ママアイ、ヤワラシタ、ヒサカキ、ハシカクサ、チゴササ、ムクゲ(選出)、ウスギヨウラク、ミヤマイタシタ、カナクギノキ、ケンボナシ、ヤスムラサキ、テンニンソウ、ウラジロ、シラカシ、ウルシ、ハエドクソウ、ジュウモンジシタ、リョウメンシタ、イノデ、アカシテ、イヌシテ、アストラチヤン、エゴノキ、ムラサキシキフ、アワスキ、ヤスムラサキ、ウリハタカエデ、クマシテ、ヤマジノホトトギス、イスカヤ、サルトリイバラ、コナラ、イワカラミ、ウツギ、クロモジ、ミヤマカタバミ、クジヤクシタ、オオバノイノモトソウ、アオキ、ツノハシバミ、コアジサイ、ミヤマハハソ、シンミズヒキ、シロヨメナ、オトコヘシ、イヌシタ、イカリソウ、キヌシ、ヤブテマリ、ヘクソカズラ、オカトラノオ、アキノキリンソウ、ママニカナ、トリカスト、オニグルミ、ウマノミツバ、マタタビ、シリフネソウ、ケンノショウコ、サワタギ、ミツマタ、シオテ、シシガシラ、クロバナヒキオコシ、ミヤマタゴボウ、ヒメムカシヨモギ、ヒメワラビ、タンドボロギク、クサソテツ、ウド、キツネガヤ、シラカシ、ウラジロガシ、サルナシ、テンニンソウ、ウワバミソウ、ハタロソウ、アサクサゲンショウ、カマ、ベニシタ、イタチシタ、ママボウシ、トチバニンジン、サワシバ、シロダモ、オニカナアラビ、ミヤマイラクサ、ミヤマミズ、オオヒメワラビ、クサイチゴ、アカメガシワ、ボタンスル、オオツツラフジ、クサギ、タツノヒケ、カツラ、ウコギ、タチドコロ、ハクトロソウ、ヒメワラビ、アストラチヤン、ヤスミヨウガ、イタチシタ、ハクウンボク、タンコウバイ、ユキツバキ、キツリフネ、チドリノキ、スイカズラ、ウリノキ、カマズミ、オオバハチジ

(採)

ヨウシダ、ギンバイソウ、イタマカエデ、トチノキ、カツラ、クサアジサイ、ミズタビラコ、ミゾホホベキ、タイミンガサ、イワタバコ、ツルマサキ、カナクキノキ、モミジチャルメルソウ、ウワミズサクラ、エンレイソウ、サワグルミ、カラスサンショウウ、チマルメルソウ、スミレサイシン、コタニワタリ、ハンショウヅル、シケチシダ、サラシナショウマ、コイケマ、オノエヤナギ、キヌシ、ミツバフクロウ、クルマムグラ、オオカニコウモリ、オオママハコベ、ヤマズキショウマ、アマチャズル、

(寒蟬義一記)

大島半島植物採集記

大島半島は若狭湾に突出しているいくつかの半島の一つで、植物分布上興味をもつていたが、今回8月11日から3日同郷芳春光庄と共に調査をしたのでその概要を報告する。

この半島への交通は専ら海路で、若狭本郷との間に定期便がある。半島の東岸は凹凸多く所謂沈降地形をなし、部落はこゝに点在するが、西岸は直線状で断崖が海にせまり、汀線にそつて断続した道路があるのみである。

分水嶺は西側寄で高さは100～200mであるが、通路は殆どなく、部落民が柴刈りに利用するいくつかの横断路があるに過ぎない。地質は石と内緑岩乃至蛇紋岩より成り、大見附近ではその風化した土壌は肥沃土として掘り出されている。

第一日

河村部落にある小学校に到着したのは正午頃なので、昼食後東岸及び半島先端部の採集を試みた。先ず自然林の保存されている島山神社（河村部落）社叢の調査をした。この社叢はヒメユズリハ、スタジイ、モチノキ、タブノキ、シロタモ、トベラ、ヤブニッケイ等

